

## 議場で謝罪を行いました。

2016年2月議会後、「行徳臨海部特別委員会」

副委員長と「議会運営委員会」委員を辞任しました。また、4月22日臨時議会の問責を受け、謝罪をしました。大変、不名誉な話ですが、こういう話こそ、いち早く皆様にお伝えしなければいけないと思いますのでご報告します。初めに述べなければいけないのは「議会はこのままでいいのか？」という焦り「私が議会をもっと良くしてやる！」という驕りからの独善的な判断が招いた恥ずべき行為であり、このような事は2度と起こさないようにします。その上で、事の顛末になりますが、「議会運営委員会」の定数を現行の11人から14人にしよう。という発議が、提出者1名、賛成者19名(※市川市議会は42名です。)から提出されました。委員を3人増やすと、3人分余計に委員会視察費がかかるので、理由を質疑で確認すると「より議会運営委員会を良くするため。」との漠然とした回答。これは議会運営委員会で「どうすれば人数を増やさずに」

「無駄な出費を出さずに」より良くする事ができるか、審議した方が良い。と私が考える中、多数決で「議会運営委員会への付託なし(※委員会での意見交換をしない)で、多数決のみで決めよう！」と決定しました。この段階で見えた点がありました。vol.21『民主主義』と『学びあい』」で類似の事を述べましたが、多くの議員は、本会議を「互いに主張しあった後、いいと思うものを多数決で最終的に決める場」とイメージしているようです。私は委員会を通して「互いの考えをすり合わせて、より良い考えを探りながら合意形成をする場」とイメージしています。そこにギャップがあります。今回、委員会を通した合意形成はやらないと決定されました。でも、審議する事の大切さを、審議もしないで、いたずらに市民の皆さんの税負担を増やすのがどんなに酷い行為なのかをどうしても同僚議員に伝えなかった。ですので、まさに多数決が行われる直前の私の討論で「罵詈雑言、攻撃性の塊」のような表現を用いて批判をしました。(※内容の詳細は控えます。)議会は怒号とヤジの嵐。議長の不穏当発言の取り消し指示も「私の意見なので取り消さない！」と失礼を続けました。「増田の発言は問題だ！」という指摘にも「是非『懲罰委員会』を設けて下さい。懲罰を受けるのは嫌ですが、何故、増田がこんな発言をしたのかという事を通して、少しでもこの件、審議していただきたいです。」と主張しました。その後、懲罰動議は出さず、議会運営委員会の定数を増やす事が、賛成多数で可決され、議会は閉会しました。もう私は意地を張る必要はありませんので、到底許されないでしょうが、市民の皆様や議員へ謝罪し、議長の発言取り消しも全て受け入れました。さて、改めて今回の件、私が100%悪いです。市川市議会の意思決定の仕組みがこれまでずっとそうだったわけですし、それを変えようという機運もない中では、伝統に敬意を払って受け止めるのは当たり前です。しかし、今後は、マイナスからでも、市川市の「本当の意味での民主主義のあり方」について、焦らず議論を深めていきます。失敗ばかりの私からお伝えしたい事はやはりひとつです。「理想の市川市のあり方」を話し合せて下さい。個々人の想いが集まれば、良い社会が形成されます。今日も1日、素敵な日を過ごせませうように。気をつけて行ってらっしゃいませ♪

平成28年4月25日

増田好秀